



「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会ニュース

「保険でより良い歯科医療を」
愛知連絡会

〒466-8655
名古屋市昭和区妙見町19-2
愛知県保険医会館内
TEL ; (052) 832-1349
FAX ; (052) 834-3584

『保険で良い歯科医療を』さらに前へ 全国連絡会総会・シンポジウムを開催

10月27日、「保険で良い歯科医療を」全国連絡会の第15回総会・市民企画が東京で開催されました。

前回総会（2016年10月）から、新たに京都、三重、山梨の3つの府県で連絡会が結成され、合計10都府県となった地域連絡会をはじめとして、全国から40名の参加でした。愛知連絡会からは江原会長、大藪副会長をはじめ6人が参加しました。

各地の連絡会から活動を報告・交流

第1部の総会では、会長の雨松真希人さん（歯科技工士）が開会挨拶の後、「『保険で良い歯科医療を』の運動をさらに前へ」と提起した活動方針案を提案。今後の運動方針として、①学校健診で治療が必要とされた歯科矯正治療の保険適用拡大の推進、②動きだした歯科技工問題をさらに前へ進める、③誰もがお金の



心配なく歯科医療が受けられるように、制度拡充など具体的な取り組みを進める、などを確認しました。

10都府県の地域連絡会からは、それぞれの活動、運営の努力、工夫などについて報告されました。「保険適用拡大を願う会」からは、代表の小尾直子さんが、同会を山梨の連絡会として位置付けることが9月の全国連絡会の世話人会で承認されたことを報告。京都、三重からは、それぞれ5月、7月に連絡会を結成したことが報告されました。多くの連絡会からは学校歯科治療調査や子ども食堂の取り組み、市民団体との連携などについて紹介がありました。

総会には、自民、立憲、国民、共産、無所属の衆参議員42人と従来になく多くの議員・政党からメッセージが寄せられました。

格差と貧困の解消を語り合う

市民企画シンポジウム

「口から見える格差と貧困」



総会に続き、第2部「保険で良い歯科医療を」全国連絡会・市民企画として「『口から見える格差と貧困』シンポジウムを開催。

歯科の立場から格差と貧困の解消について考えました。

大阪連絡会の戸井逸美さんが「子どもの貧困と学校健診後調査」をテーマに発表。大阪医科・歯科両協会が実施した学校健診後治療調査の中間報告（2018年5月プレスリリース）をもとに、「要受診」とされたのに未受診の子どもが歯科63.8%、眼科62.9%、耳鼻科42.8%、内科51.6%と多くいたことが報告されました。

シンポジウムでは、①全日本民医連の榊原啓太さんから「歯科酷書」第3弾の紹介、②「保険適用拡大を願う会」代表の小尾直子さんから、厚労省・文科省などへの要請や請願署名

など「子どもの歯科矯正に保険適用の拡充」を求める取り組みについて、③毎日新聞記者の坂根真理さんからは性的虐待やネグレクトなどにあっている子どもたちの発する「サイン」を歯科医療現場で受け止める重要性について、④エキタスの山本耕平さんからはエキタスがツイッター上で、「時給が1500円になったらしたいこと」を募ったところ、趣味や楽しみではなく、「歯科を受診したい」との意外な回答が多数寄せられたことについて、それぞれ発言されました。

会場からは「虐待の背景にあるのは貧困や格差。親のせいにははいけない」

「保険適用拡大については、財源論になりがちだが、そもそも保険医療とは何かという原点に戻って議論する必要がある」「署名には40代、50代が一番非協力的。本当はあなたたちの問題だよと語りかけていかなければ」といった声が聞かれました。



保団連歯科全国交流集会 10月28日 121人が参加・約50人が発言



保団連は第15回歯科全国交流集会を10月28日に東京都内で開き、40協会・医会と保団連から歯科医師76人、医師2人、事務局45人、合計121人が参加しました。発言通告は、集会始まって以来、最高の23本。のべ50人が発言を行いました。

午前中は、宇佐美宏歯科代表が基調報告を行いました。宇佐美歯科代表は、口

腔と全身の健康の関係について社会的に関心が高まっているにも関わらず、長年にわたり歯科医療費が低く抑えられていることを指摘しました。その上で、①経済的理由から歯科医療に受診できない患者さんが存在する、②「か強診」などの施設基準によって二極化が進み、歯科医療機関がトータルでは減少している、といった現状をあげ、「歯科医療の未曾有の危機」であるとし、危機打開のために、歯科医療費の総枠拡大が必要であることを訴え、「歯科医療機関全体の底上げ」「医科歯科格差の是正」「保険で良い歯科医療」「保険による補綴治療

を守る運動」を提起しました。

基調報告を受けてのフロア討論では、「歯科医療費の総枠拡大を」「貧困と健康格差の解消こそ『保険でより良い歯科医療』の重点課題」「子どもの健康はどうあるべきかの視点から学校歯科健診における咬合異常への保険適用の拡充を」「『損税解消のために尽力を』『『医療券』の取り扱いについての実態調査を」「国

民に低歯科医療費の実態を知らせよう」「窓口負担の重さは若い人たちにとって切実な問題、患者負担が減ったらどれだけ健康になるか実証しよう」など、活発な意見が出されました。

午後は、①歯科技工問題・歯科衛生士問題、②施設基準の評価・対応についての2つを討論の柱に議論を進め、最後には歯科医療費総枠拡大を求める決議を採択しました。

入れ歯デー 歯のなんでも電話相談

10月8日（月・祝）の午後2時から愛知県保険医会館で「歯の何でも電話相談」を行いました。電話相談には江原連絡会会長、大藪副会長、北生協歯科の久野先生をはじめ7人の歯科医師が市民からの相談に答えました。相談件数は11件と例年より少なめでしたが、東京、神奈川、大阪など全国各地から相談が寄せられました。

相談内容は術後や処置後の予後が良くない事例や、ブリッジの具合が悪いなど、日頃の歯科治療の深刻な悩み

が多く、対処法について丁寧に答えました。

この日は「入れ歯（108）」の語呂合わせで「入れ歯デー」として、保険医協会で「歯の供養祭」を覚王山日泰寺で行っており、例年その後に愛知連絡会として電話相談を行っています。



5月の愛知連絡会総会に参加された歯科技工士2人と9月13日、10月4日に懇談をしました。1人は大手ラボのCAD/CAM課長さん、もう1人は矯正専門の個人ラボの歯科技工士さん。

大手ラボの方は、CAD/CAMを導入していないラボには学生が見学にも来ないなどの実情も話され、実情は高額な機器のため保険での製作物だけでは採算はとれず、メーカーが言うほど利益は上がらない上、

価格競争で単価は下がり、数を上げる必要も出てくるので大変だとの事でした。

また、歯科技工法が遵守されているのかも把握できず、まず法整備をして、安心・安全な製作物の提供ができるようにし、現在従事している歯科技工士が「良い仕事だ」と言えるようにしなければ、若者が入って

歯科技工士との懇談

くる事はないと話しました。

個人ラボの方も保険は大変と言って自費の技工をやる人が多く、保険の義歯専門にやっている技工士は「時間がかかる割に利益が出なく大変」とのこと。そのため、友人の中には「院内ラボでやっていきたい」という声も多く、独立志向はへっているのではない

とのことでした。

いずれも、技工士は「自分で何とかしよう」とする人が多く、異業種との交流もしないなど、技工士自身が外に働きかけていないことも問題視。市民に技工士の仕事の理解広めるために声を上げていかなければいけないとの認識で一致できたので、今後も、共同して技工士の現状の理解を市民に広める活動を続けていきたいと思います。